



【衝撃事件の核心】ずさんな業者と市教委の実態… 大阪・泉南男児プール死

2011.9.10 12:00

大阪府泉南市の市立砂川小のプールで7月31日、小学1年の保苅築君（7）が溺れて死亡した。夏休みに一般開放されていたプールで起こった事故。監視員の不足など安全管理を委託された業者のずさんな態勢が浮き彫りになるとともに、泉南市教委の監督業務にも不備があったことが明らかになった。記者会見や市議会の場で両者の説明は繰り返されたが、責任感の乏しい安全管理だったことを裏付けるかのように、その言葉は二転三転していた。

中断した記者会見

「社長を呼んで、仕切り直してくださいよ!」

事故発生から3日後、8月3日に市役所庁舎内で開かれた市教委の記者会見は、冒頭から混乱した。

それまでの市教委の説明では、事故当初、砂川小の大小2つあるプールのうち、事故当日は大プールに監視員2人がついていたが、発見時に1人が持ち場を離れたという内容だった。だが、この記者会見では、まったく食い違う説明が飛び出したからだ。

「大プールの監視員は1人で、その1人が管理室に戻っていた。そのため、監視員は不在だった」。プールの安全管理の委託を受けていたビル管理会社「ダイショウコーポレーション」（泉南市）の社長から、こうした訂正が入ったためだった。

記者会見は中断され、社長に直接説明を求めるため、市教委が連絡を取るようになった。約1時間後、社長が記者会見に出席して再開。市教委の確認を受け、現場責任者に改めて状況を確認したところ説明が変わったという。社長は「監視員の配置が会社の指示した内容と違ったため、詳しい説明をためらったようだ。（責任者は）うそを言うつもりはなかったようだ」と釈明した。

不足していた監視員

築君が溺れた大プールは長さ25メートル、幅13メートル、底面は真ん中に向け傾斜がつき水深は1・1～1・3メートルあった。いわゆる学校に広く普及する「25メートルプール」だ。事故当日は10分間の休憩が終わり、午後1時55分に遊泳時間が再開してすぐ、子供と一緒に泳ぎに来ていた男性会社員（34）が、底に沈んでいた築君を発見した。

「こんな長い時間、潜っていて大丈夫か」。男性が、あまりに長い潜水時間に心配になり、築君を引き上げたという。

